山口県病院協会会報

2023 1月号 No.78

●発行日　令和５年１月１日
●発行所　一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814　山口市吉敷下東三丁目1番1号
●電話　083-923-3682
●FAX　083-923-3683
●発行人　三浦　修
●印刷所　大村印刷株式会社
●メールアドレス　info@yha.or.jp
●ホームページ　http：//www.yha.or.jp

年頭のご挨拶

会長　三浦　修

明けましておめでとうございます。山口県病院協会の会員ならびに病院職員の皆様、また多くの関連団体の皆様方も、新たな思いを胸に新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

新型コロナウィルス感染拡大は３年目に入り、昨年秋からの第８波ともいうべき大きな流れの中で、県内でも多くの医療機関、高齢者施設、障害者施設などでクラスターが発生しました。大多数の感染者の方は軽症とは言え、高齢者や基礎疾患を持った方、あるいはもともと介護度の高い方の入院受け入れ、さらに下り入院の調整など、山口県新型コロナウィルス感染対策室並びに県内各病院ともに非常に苦労されたと実感しております。院内、あるいは施設内でのクラスター発生を経験した方々は、大きな負担と責任とを感じられていることと思います。非常時においては、保健所や県と協力しながら早急に対策を講じ、二度とクラスターを発生させないという職員一体となった強い危機管理意識が必要となります。

かかりつけ医機能の問題は、病院の規模によっても変わってきますが、患者さんが地域の病院を身近な存在と感じ、それに答える形で種々の情報を提供し、より専門性の高い医療が必要な場合には専門医への紹介を行うことができれば十分かかりつけ医機能を果たしていけます。そのためにも、私たちは日々の診療の中でも常に気を配りつつ、広い視点で患者さんと向き合う真摯な姿勢が求められます。

医療機関におけるICT化、DX化などが進むに伴い、サイバーセキュリティについても大きな課題となっています。マルウェアにひとたび感染してしまうと、情報漏洩やシステムの停止など、病院機能そのものが麻痺してしまい、多大の経済的負担を強いられることになります。現在、多くの医療機関では電子カルテを使用していることと思いますが、ウィルス対策ソフトの導入やOSの最新化、確実なバックアップ取得ばかりでなく、職員の情報管理に対する意識改革も重要となってきます。山口県病院協会でも、研修会などを通じてサイバーセキュリティ対策に関する最新の情報を提供できるよう努めていく所存です。

2024年の春に向けて各病院ともに、医師の働き方改革への対応を進めていることと思います。約６割の医師は年間の時間外、休日労働時間が960時間までというＡ水準に収まっていますが、Ａ水準以外の各水準においては、それぞれの水準ごとに都道府県から指定を受ける必要があります。複雑に思えるのは、各水準は、指定を受けた医療機関に所属するすべての医師に適用されるのではなく、指定される事由となった業務あるいはプログラムに従事する医師にのみ適用されるため、病院として、院内診療科の医師がそれぞれどの水準にどう当てはまるかを正確に把握しつつ、個々の労働時間を管理する必要があるからです。

新型コロナウィルス感染症の先行きが見えない状況の中、地域医療構想調整会議は各圏域で開催されています。県内の多くの病院では、検査、手術、救急医療などを含め、通常診療が制限される場面もあると思いますが、地域における将来のあるべき姿をしっかり見据え、自院の立ち位置を再確認しつつ、医療提供体制の確保に努めていかなければなりません。

今年が皆様にとりまして、少しでも明るく夢を持てる年になってくれることを心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

CONTENTS（目次）

山口県病院協会会長挨拶…… １ページ
関係団体挨拶…… ２ページ
協会役員コーナー…… ３ページ
病院スタッフコーナー…… ４ページ
研修会報告…… ５ページ
トピックスコーナー…… ５～７ページ
お知らせコーナー…… ８ページ

年頭所感

令和5年年頭所感

山口県医師会
会長
加藤 智栄

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、第６波、第７波に見舞われ、特にオミクロン株BA.5による第７波では、重症化の頻度は低いものの、感染力が絶大で全年齢層が罹患し、高齢者施設や医療機関においてもクラスターが発生するなど県内でも今までの10倍規模の感染状況となりました。

そのような中、発熱外来や診療・検査外来で対応していただいた先生方、入院治療で対応された先生方、ワクチン接種で貢献された先生方、そしてそれらを支えた医療機関の職員の方々のご尽力に感謝申し上げます。

また、コロナ禍だけでなくロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価高騰にも見舞われました。国は、この対策として新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増額・強化を図り、電力・ガス・食糧品等価格高騰重点支援地方交付金を創設し支援を打ち出しました。

県医師会としては、公定価格によりサービス提供を行う医療機関に対しサービスの維持・継続のための支援を県に強く要望し、11月補正予算で医療機関に対する支援を得ることができました。私が会長となった昨年６月より新執行部がスタートを切りましたが、私は10年間の県医師会における経験から、山口県における喫緊の課題は、若手医師不足の解消であると思っております。

郡市の医師会、地域の病院との懇談会では、どの地域でも医師が不足し、時間外救急が回らないとの話が出てきます。県医師会では、県内の医師の働く環境が少しでも改善されるよう、時間外救急に携わる医師にインセンティブを付与する制度を創出するように県に働きかけています。

また、医師事務作業補助者の活用促進やスキルアップに向けた取り組みは、勤務医の負担軽減に役立っておりますし、2024年４月から施行される医師の働き方改革も、人が増えることによってより良い方向での改革が進むものと考えます。

このような流れの中、日本医師会では、若手医師をサポートするため、来年度より医学部卒業後５年目まで会費減免を延長する取り組みを実施することとしており、県医師会でも、これに準じて規定の変更を行い、臨床研修医のみならず若手医師が負担なく医師会活動に積極的に参加してもらえるようにしました。山口大学医学部とも昨年懇談会を開催し、相互理解を図るとともに医師確保、研究助成金制度の創設等について協議しました。今後もより連携を深めていきたいと考えています。

話はかわりますが、私は最先端の良い医療を提供するためには、日本が経済発展をするしかないと考えています。経済が好転しないと最先端の医療を取り入れていくことは困難になります。医薬品、医療機器の市場は、日本を含め世界における高齢化の進展や新興国における医療拡大に伴い、世界的に高い成長率を維持しています。

しかしながら日本では医薬品や医療機器の多くは輸入され、貿易赤字は４兆円を超えています。こういった成長率が見込まれる需要のあるところに投資をしないから経済が発展しないのではないか、と思っています。アメリカのファイザーやモデルナはコロナワクチンを開発し世界に貢献するとともに莫大な利益を得ました。スイスにはノバルティスやロシュといった大手製薬会社があり、化学・製薬産業が国の輸出の主力となっています。高齢化では世界の最先端を行く日本で、医療・介護産業を育てていけば、日本の後追いで高齢化を迎える国々での需要が見込め、日本経済は発展し、日本の未来は明るくなると確信しています。

今年が、未来に希望が持てる年となることを祈念して新年のご挨拶といたします。

協会役員コーナー

臨床研修医の確保について ～山口県に若い力を～

綜合病院
山口赤十字病院
病院長
末兼 浩史

新年おめでとうございます。

当院は日赤病院として開設後103年目を迎えます。昨年10月に新病棟がオープンし、別稿に広報を掲載いただいています。本稿はそれ以外の話題として、今春の臨床研修医採用について書かせて頂きます。

採用面接は昨年９月・病棟コロナクラスターが収束に向かっている最中に行いました。定員の２倍を超える応募があり、当院の選択理由としてはプログラム内容の自由度、症例数、所在地、赤十字のネームバリュー、説明会・病院見学の時の雰囲気、指導医の人柄等に魅力を感じた人が多く、情報の入手先はHP・情報サイトからが知人からの情報を上回っていました。志望する科を決めている人とこれから研修中に考える人は約半数ずつで、山口県の医療に興味を持ち、趣味も多彩で自分のビジョンをもった好感をもてる医学生ばかりで順位付けに苦労しました。基幹型応募６枠が埋まるかどうか不安でしたが、10月27日のマッチング最終結果では６名の応募があり当院としては初めての６名フルマッチ達成となり喜んでいます。

こうして少しずつ山口県に若い医師を確保することで医療圏内の活性化を促進し、医師の高齢化等の問題を少しずつでも解消してゆく一助になればと思います。

今後も、博愛と医療者としての矜持を持って、働き甲斐・笑顔・職場環境改善につながる向上心を欠かさず、地域に信頼される病院づくりに励みたいと思います。新研修医の皆様には日々の研鑽で病院そして地域の一員として、ぜひ若い力で地域医療を支えてゆく礎になって頂くよう願っています。

年頭のご挨拶

山陽小野田市民病院
病院長
藤岡 顕太郎

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては新たな気持ちで令和５年の新年をお迎えのことと存じます。

令和２年から始まった新型コロナウイルス感染症は未だ収束する気配がみられません。昨年はコロナ感染者が増加するたびに県がWeb会議を開き、対応策がその都度変更されました。第７波を迎えた時には入院するコロナ患者さんのほとんどは90歳前後の高齢者となりました。コロナ病棟の看護師さんたちは食事介助、体位変換、おむつ交換といった介護に多くの時間を割かざるを得なくなりました。防護着を着ているとはいえ直接コロナ患者さんに接している看護師さんたちには本当に頭が下がります。

コロナ対応をするために職員が集まって話し合いをすることにより職員同士の絆が宴会なしで深まったとポジティブに感じています。職員の体調に少しでも異変があればすぐ報告する雰囲気を作っているのが、クラスター発生を抑制していると思います。

昨年10月安倍晋三元首相の県民葬に山口県病院協会理事として参列いたしました。昭恵夫人の喪主としての御挨拶を聞き、さすがだなと感銘しました。

私が山口県病院協会の理事にご指名いただいて以降、研修会、懇談会が開催されていません。これらが今年こそ開催され皆様と交流を深めることができることを願っています。

今年もよろしくお願いいたします。

病院スタッフコーナー

コロナ禍での経験を地域医療へ

医療法人　岩国みなみ病院
看護師主任
佐伯　愛

新年あけましておめでとうございます。

当院は山口県東部に位置する岩国市にあり、呼吸器、消化器疾患を専門とする地域密着型の病院です。よりフットワークの軽い病院を目指しており、訪問診療、訪問看護も行っています。

2019年に始まったコロナ禍において当院は、３年間対応をしてまいりました。まずインフルエンザや結核などの感染対策を強化してコロナ病床（５床）を開設しました。第４～５波を中心に入院対応を行いました。重症化率が高いステージでの診療、看護の経験は我々の大きな自信となりました。

外来においては、発熱外来を開設し、診断や治療に積極的に取り組んでまいりました。又山口県からの要請により、陰圧ルームを利用し日帰りの抗体療法を行いました。外来看護師が対応し、普段とは違う業務で、感染対策に不備はないか？など不安とプレッシャーの中対応してまいりました。しかし抗体療法を終えた患者さんから「自宅療養で何も治療がないのは不安だったけど、点滴してもらえて安心した。ありがとうね」と声を掛けて頂き、やりがいを感じました。現在は後遺症外来を開設し遠方から多くの患者さんが受診されています。患者さんの訴えに耳を傾け、寄り添い、共感することを学びました。この経験は今後の感染症診療に大いに役立つものと思います。

今年は、現在休床中の一般病棟を再開予定です。我々は新型コロナ感染症の患者さんの診断から治療、その後のフォローに関わり、病院として大きく成長できたと実感しています。この３年間の経験を糧に、地域の皆様に安心、安全な医療、看護が提供できるよう、みなみ病院チーム一丸となり精進して参ります。

地域の皆様と共にある病院を目指して

医療法人社団泉仁会
宇部第一病院
地域連携室室長
石川 礼子

新年あけましておめでとうございます。

当院は宇部市の北部地域にある病院です。山間部にあるため、自然豊かでイノシシやタヌキなどの野生動物に日常出会います。特に早朝や夜間は遭遇率が高いため、外に出る時は注意が必要です。当院は内科・整形外科・歯科があり、医療療養病床が128床と回復期リハビリテーション病棟が32床あり、リハビリテーションに集中できる環境になっています。

市街地と異なり高齢の一人暮らしの方も多く、お迎えの送迎がないと通院にも困る方が多く生活されています。そのため、送迎バスを運行しています。北部地域は入院施設も少ない為、地域医療の病院とも連携しながら入退院を調整しています。

そのような病院の地域連携室に入職し６年が経ちました。それまでは療養病床と訪問看護で勤務をしていました。初めのころは毎日の出来事に戸惑うことも多かったですが、病院と在宅の両方の経験を生かすことができているのではないかと思います。

しかし今まで経験したことのない感染症の流行もあり、当院でもコロナ感染のクラスターを経験し日々の業務が困難で病床の調整に大変苦慮しました。

スタッフの協力や地域医療との助け合いの中で乗り越えることが出来たのではないかと思います。日々の積み重ねや人との信頼関係の構築がチームワークに繋がっていると実感しています。

研修会報告

令和４年度　病院看護師長研修会

令和４年10月19日（水）に、病院看護師長研修会がWeb開催で行われた。３年ぶりの開催であり、48名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

テーマ　「部下育成コーチングとセルフケア」
講　師　有限会社ケイ・アンド・ワイ
　　人材育成部門代表　温品　富美子　氏

温品　富美子　氏

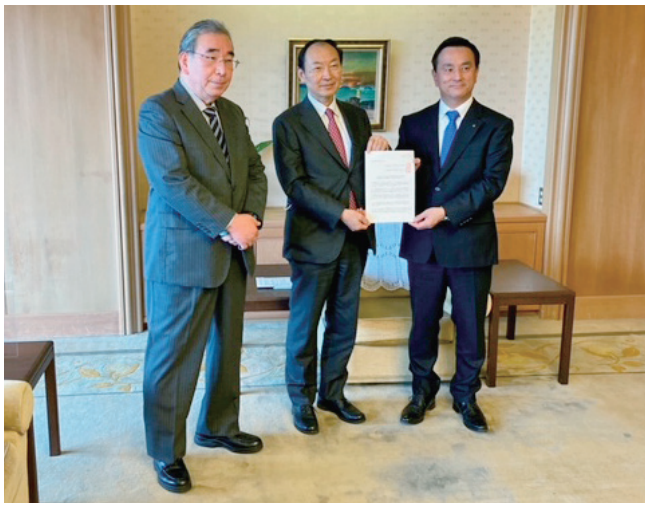
温品氏は、看護師長が自分のスキルを発揮するのみならず、部下育成や組織運営まで担うために必要な余裕を身に付けるための、応用的なコーチングスキルとセルフケアについて解説された。

開催後のアンケートでは、コーチングスキルとセルフケアについて「過去に学んだことがある」参加者も多かったが、一部「興味はあったが学ぶのは初めて」である参加者もおり、今後も研修の機会を設けていきたい。

トピックスコーナー

医療機関に対する光熱費高騰対策支援について

国による「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金の創設」に伴い事業者支援の中に医療施設等に対する物価対策支援が追加されたことから、当協会三浦会長と加藤医師会会長は連名で山口県に対し、様々な形でロビー活動を行い、11月１日（火）には村岡県知事に直接面会し要望してきた。



その結果、11月定例議会の補正予算案に支援策が上程され、可決された。

支援策の概要は次のとおり。

199床以下の病院　10万円＋１床×３万円
200床以上の病院　10万円＋１床×４万円

成果は得られたものの、あくまで一過性の対応であり物価高騰の解決策にはならないことから引続き機会を見つけては支援策の要望を行っていく意向である。

トピックスコーナー

県央部地域医療支援病院の建替えについて

綜合病院山口赤十字病院

【新病棟竣工について】

正面から見た北病棟

総合受付

令和五年・癸卯の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

コロナウイルスの感染拡大から既に３年が経過しようとしていますが、いまだ収束が見えておらず、昨年末には第８波を数えており、まだまだ不透明な状況が続いています。

経済活動とのバランスではありますが、我々医療の提供側としては、規制緩和により感染者が増える影響は大きく、医療サービスの安定提供には難渋は続きそうです。

さて、県央部に位置する当院ですが、昨年10月に新たに北病棟がオープンし、患者さんの安全の確保と病院機能の強化を行いました。

工事期間中に発生した新型コロナウイルス感染症により、発熱患者さん対応のため計画変更し、発熱外来の設置や個室増床など実施しています。併せて救急処置室、放射線一般撮影室、透析個室等を陰圧対応としています。

県内初となるトモセラピーRadixact（ラディザクト）も導入しました。従来のリニアック装置に比べ、がんの病変部に線量を集中させて治療を行うため、頭頸部領域や前立腺治療で精度の高い放射線治療を提供することができます。

災害対応として、浸水対策や、ガスや電気の２系統供給を整備しています。

旧棟を解体し跡地の駐車場化などを実施後、今年11月頃に完成予定です。

今後も、急性期医療を中心に、小児・周産期医療、緩和ケアを含めたがん医療など、診療機能の充実に向けて取り組み、地域医療に貢献したいと考えております。

今年が、皆様にとりまして、卯（う）まく行く2023年となりますよう祈念申し上げます。

トピックスコーナー

県央部地域医療支援病院の建替えについて

社会福祉法人恩賜財団済生会支部　山口県済生会山口総合病院

【これからも地域と共に】

完成イメージ

北棟ドローン撮影

令和４年６月30日、旧外来駐車場に建築を進めておりました新棟（北棟）が完成し、同年９月１日より供用を開始いたしました。

機能移転に際しては、外来を２日間休診させていただき、地域の医療機関の皆様方のご理解とご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

新棟の診療機能は、１階に救急部門と放射線部門（CT・MR・RI）・栄養部門、２階は外来（整形外科・脳外科）と薬剤部門・放射線部門（心カテ、透視、一般）、３階はICUと循環器病棟、４階は腎センター・リハビリテーション部門・検診部門を配置、５階は整形外科と外科・婦人科の混合病棟、６階は外科病棟となっており、その他の病棟や外来・検査部門・事務部門等は、一時的に現在の西棟に集約されます。

また、地域医療構想による新たな医療体制の構築を見据え、新棟の供用開始に併せて病棟の再編成を行い、病床数310床を279床に減床し、６病棟体制を５病棟体制へと変更いたしました。

新病院建築事業は、この度の第Ⅰ期北棟建築を皮切りに、今後、第Ⅱ期の南棟建築、第Ⅲ期の立体駐車場建築を計画しており、竣工までおよそ６年５ヶ月の年月を要しますが、新病院完成後は、延べ床面積約27,500m^{2}となり、現在の約1.4倍の広さになります。

職員にとって様々な思い出が詰まっている旧西棟（昭和45年～）、東棟（昭和59年～）、管理棟（昭和61年～）西棟（平成４年～）の解体には感慨深いものがありますが、新病院とともに、これからも地域の中核病院として皆様からの期待に応えられるよう医療の質の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お知らせコーナー

死　亡　叙　位

令和４年10月22日に逝去された医療法人仁保病院 理事長 貞國 燿 氏（元山口県病院協会会長）は、生前の地域医療と医療業界の地位向上と貢献が認められ、従五位に叙せられました。

ここに謹んでお知らせいたします。

伝達式にて（左から２番目が貞國太志理事長）

令和４年度山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、次の病院に決定し、10月21日、山口県庁において伝達されました。おめでとうございます。

岩国市医療センター医師会病院（病院長　茶川　治樹）

表彰式にて（前列右から二番目が茶川病院長）

表彰状

会員等の異動

会員の変更	変更後		変更前	
・柴田病院	病院長	西田　輝夫	理事長	柴田　大明
・仁保病院	理事長	貞國　太志	理事長	貞國　　燿

病院協会の主な行事予定

○１月下旬	第１回総務委員会	（会場：未定）
○１月27日	四県病院協会連絡協議会	（Web開催）
○２月15日	事務長部会総会および研修会	（会場：山口グランドホテル）
○３月14日	第４回理事会	（会場：KKR山口あさくら）
○３月14日	第４回情報管理委員会	（会場：KKR山口あさくら）

編集後記

◆物価高騰に対して、電力・ガス・食糧品等価格高騰重点支援地方交付金による支援を受けられることになり感謝しています。まずは一息つけるようですが、継続して医療を提供していくためには単年度の支援だけでは難しいかもしれません◆新しい年を迎え、世の中が動いています。来年は診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬が同時に改定されるいわゆるトリプル改定の年です。社会保障費の抑制の圧力もありますが、世の中は変わっても、患者さんや利用者さんは変わらず存在します。彼らが必要とする医療や介護を提供し続けられるよう、現場でもよりいっそう効率的に効果的にサービスを提供していかなければならないと気を引き締めています。（木下　祐介）